

◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 国語科 》

全体の概要

全体の正答率は全国平均とほぼ同じであった。無解答率も全国や県と比べて低く、粘り強く問題に取り組もうとする姿勢がうかがえる。学習指導要領の内容別に、改善の必要な箇所を見ると、「知識及び技能」では「言葉の特徴や使い方に関する事項」が、「思考力・判断力・表現力等」では「話すこと・聞くこと」、「読むこと」において改善が必要である。具体的には、言葉の意味を答える問題や問題文から条件を読み取って記述する問題について解答率が低く、特に改善が必要だと考えられる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は全国平均とほぼ同じであった。「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均よりも正答率が高かった。今後の課題としては、語彙力の拡充が挙げられる。今回、「落胆する」の意味を答える問題の正答率が全国平均より低かった。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことが十分にできていないと考えられる。</p>	<p>全体の正答率は全国平均とほぼ同じであった。「書くこと」については、全国平均よりも正答率が高かった。しかし、読書に関する経験や知識に触れながら自分の考えを書く問題の正答率は、全国平均を大きく下回った。文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることを苦手としている生徒が多いと考えられる。また、問題文の中から条件を読み取り、条件を満たした解答を書くことを苦手としている生徒も多いと考えられる。</p>



改善に向けた具体的取り組み	<p>「知識・技能」の観点については、授業の中で言葉に着目し、生徒の語彙力の拡充を目指す。漢字や文法、歴史的仮名遣いなども折に触れて小テストを行い、基礎的な知識の定着も目指す。</p> <p>「思考・判断・表現」の観点については、いくつか条件を示し、それらに沿って自分の考えをまとめる活動を授業の中で行っていく。自分の考えを書く際に、複数の条件を読み取って文章を組み立てる力を身につけさせたい。</p>
---------------	---

◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 数学科 》

全体の概要

全体の正答率は県平均を上回る結果であった。特に、「数と式」「データの活用」の領域では大きく上回った。また、説明を記述する問題においては、正答率が高いだけでなく無答率が低くなっていて、これらの問題に対して前向きに取り組もうとする意識が表れている。しかし、「関数」「図形」の領域では正答率が県平均とほぼ同じであった。

また、質問紙調査では、「数学の勉強は好きですか。」「数学の授業内容はよくわかりますか。」の問いに対して、肯定的な回答をした生徒が県平均を大きく上回っていた。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は県平均を大きく上回る結果となっている。特に「数と式」「データの活用」の領域では、自然数を選ぶ問題や四分位範囲を求める問題など、正答率が県平均を大きく上回っていて、用語を確実に理解できていたと考えられる。一方、平面が1つに決定されるための条件、反比例の意味を問う問題では県平均を下回る結果となっていて、1年時の内容を再度復習する必要がある。</p>	<p>全体の正答率は県平均をやや上回る結果となっている。特に説明する問題においては無答率が低く、正答率も県平均をおおきく上回っている。日頃の授業の中で説明する問題に多く取り組んできた成果が表れたといえる。しかし、図形の証明の関する問題では正答率が県平均を大きく下回る結果となり、出題の仕方がいつもやっている形と異なる場合に戸惑ってしまい、正答にたどり着けない傾向が見られた。出題形式にかかわらず正答に導くための思考力、表現力を高めていく必要がある。</p>



改善に向けた具体的取り組み	<p>タブレットのドリル学習機能を活用して、1・2年時の内容を繰り返し復習し、定着させていく必要がある。基本的な知識・技能はある程度身に着けている生徒が多いので、数多くこなしていくことでより早く、より正確に問題を解いていくことができると思われる。また、証明問題に苦手意識が見られるため、穴埋め形式やスモールステップのやり方で慣れさせていく必要がある。</p>
---------------	---

◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 英語科 》

全体の概要

全体の正答率は県平均を上回る結果となった。「知識・技能」は県平均を大きく上回り、「思考・判断・表現」は県平均とほぼ同じであった。またここ数年、県平均を下回っていた「書くこと」についても、今回は県平均をやや上回ることができた。しかしながら、「書くこと」に関しては、自分の考えや理由を書く問題や英文の表現方法を書き換える問題などで無回答率が高く、その点が課題として挙げられる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は、県平均を大きく上回る結果となった。領域別にみると特に「聞くこと」に関する問題の正答率が高かった。また「書くこと」の領域の中で、指定された文法事項を使って答える問題についても県平均を大きく上回る結果となった。これらの要因としては、授業の中で繰り返し生徒に取り組ませたことにより、聞く力や基礎的な文法事項が身に付いたと考えられる。</p>	<p>全体の正答率は、県平均とほぼ同じ結果となった。領域別にみると「読むこと」の領域の中で、短い英文を読んでその概要を捉える問題の正答率が県平均とほぼ同じであった。この要因としては、授業で教科書の内容読解を取り扱うときにキーワードや作者が一番伝えたい文を意識させて取り組ませてきたことが挙げられる。</p> <p>一方で、英文を聞きながら内容を理解し、その内容に適した英文を選択する問題や指定された語数でまとまりのある英文を書く問題については県平均をやや下回る結果となった。その点が今後の課題として挙げられる。</p>

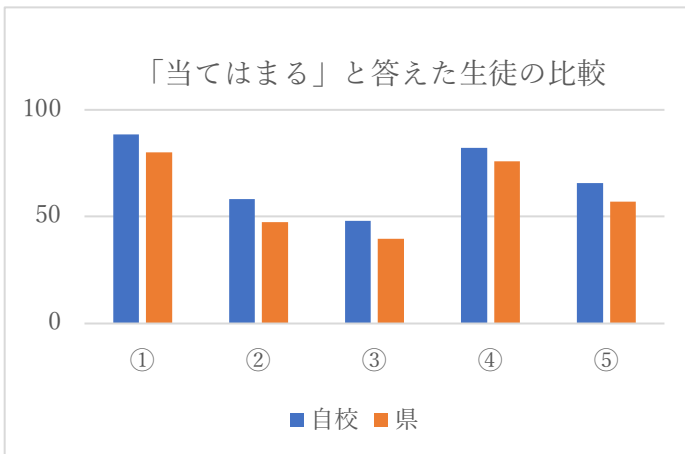


改善に向けた具体的取り組み	<p>「知識・技能」の観点については、これまで授業の中で取り組んできたリスニング活動やコミュニケーション活動を継続しながら基礎学力の定着を図る。「思考・判断・表現」の観点については、スピーキング活動を通して自分の考えや理由を伝える練習を行い、そこから書く力へと繋げていく。</p> <p>また、生徒の良い作品を生徒同士共有させながら、英語が苦手な生徒でも粘り強く取り組めるような工夫を図っていきたい。</p>
---------------	--

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	朝食を毎日食べていますか。
②	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか。
③	将来の夢や目標を持っていますか。
④	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
⑤	友だち関係に満足していますか。



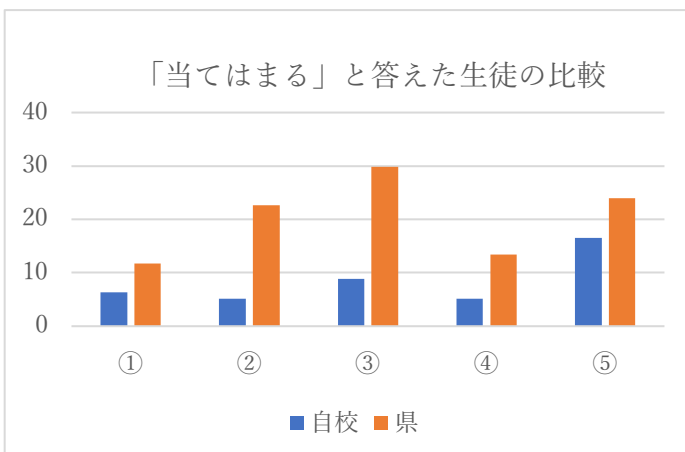
分析と取り組み

「当てはまる」と答えた生徒が県平均を大きく上回っている5項目である。

朝食を食べている生徒の割合が高く、家庭での生活習慣が整っていると思われる。また、人の役に立ちたい、夢や目標があると答えた生徒も多く、家庭や学校での人間関係が安定していることが伺える。今後も生徒の些細な変化に敏感になり生徒理解に努めていきたい。

【 数値が特に低かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
②	学校の授業以外に、平日1日当たり2時間以上、勉強をしますか。(学習塾等も含む)
③	学校が休みの日に、1日当たり2時間、勉強をしますか。(学習塾等も含む)
④	昼休みや放課後、休みの日に本を読んだり借りたりするために、図書館へ週に3回程度行きますか。
⑤	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



分析と取り組み

計画的に学習に見通しをもって取り組めていない。学習時間についても不足しており、学校で定期テストの計画はもちろん、普段からの学習を計画的に取り組めるように支援していきたい。

また、学習した内容が次の学習につながることを意識した授業を展開していきたい。

本にふれる時間も少ない傾向にある。朝読書の呼びかけや学校図書館を有効に活用できるよう工夫していきたい。